NPO法人棚田ネットワーク会報誌　第129号

棚田に吹く風

2023
秋
Autumn
季刊

2 特集
棚田米のブランド化の今
～棚田米にユニークな付加価値をつける～
5 フォトエッセイ
美しい棚田との出会い
6 棚田・里山からのたより
追谷棚田～先人から引き継がれた追谷の風景
島根県奥出雲町竹崎追谷
8 棚田BAR
生きもの屋の里山考
9 棚田博士は今日も行く
空木岳を望む伊那谷の棚田
長野県中川村飯沼
12 読者のひろば
14 棚田俳壇
スタッフのつ・ぶ・や・き
15 Project Report

特集

棚田米のブランド化の今

～棚田米にユニークな付加価値をつける～

会報２００９年10月号で「棚田米流通の謎」を特集しましたが、それから十余年、棚田米のブランド化は決して活発とはいえませんでした。少子高齢化やコメ全体の消費は毎年10万トンのペースで減ってきておりコメ余りの問題も変わらずあります。しかし、ウクライナ戦争、地球温暖化等の影響もあり、国民の間に食料を外国に依存することの危うさから食料の安全保障に対する関心が高まり、棚田を巡る状況も変わりつつあります。農林水産省が選定している「ディスカバー農山漁村の宝」にも積極的な棚田米のブランド化を試みる事例が見られるようになりました。年間45トン12種類の棚田米を扱う成川米穀店の成川氏も、「ＳＤＧＳや地球温暖化がたびたび取り上げられることもあり、棚田の知名度が高まり、お店でも棚田米を見て話題にするお客様が多くなっている」と語ります。

棚田米ブランド化の先進地としては、特別栽培米の認定を受けて、品質やパッケージを統一した「棚田米 蕨野」を販売する佐賀県唐津市相知町蕨野や、集会所に精米プラントを導入して魚沼産コシヒカリを精米～梱包作業を効率化しパッケージを統一し「山清水米」という独自ブランドで販売する新潟県十日町市池谷・入山などがありますが、今号は、最近注目される棚田米にユニークな付加価値を付けたブランド化の事例を紹介します。

Case2

棚田で農薬や化学肥料を使わない、環境保全米の栽培

株式会社 NOROSHI Farm　富山県魚津市観音堂

株式会社NOROSHI Farmのある魚津市は、富山県の東部に位置し、北アルプスに連なる山岳地帯で、市域の70％が標高２００ｍ以上の急こう配の山地で占められ、台地から平坦地、海岸へと緩やかな斜面を形成しています。

能登 神子原｜神子の里公式通販サイト https://mikohara.com/

Case1 ローマ法王に献上し、一躍有名となりブランド化

株式会社神子の里　石川県羽咋市神子原町（神子原町棚田群）

石川県羽咋市は、石川県の能登半島の基部西側に位置し、邑知潟低地平野部を囲んで海手山手に散在しています。神子原町では、2005年（平成17年）に神子原地区で生産されたコシヒカリを「神子原米」としてローマ法王に献上し、一躍有名となりブランド化に成功しました。

神子原地区住民等が共同出資して2007年「株式会社神子の里」を起業し、同年にオープンした神子原農林水産物加工販売施設（2020年リニューアル）（通称：神子の里）を地域の拠点と位置付けて新鮮で安全な農産物の販売や棚田の保全、活用や住民の生活環境の持続に向けて取り組んでいます。市内酒造会社と協力し、神子原米を使用した純米大吟醸酒「神子-Son of God-」を2019年（令和元年）に発売、神子原米の米粉を使ったソフトクリームやスイーツなど、神子原米の魅力をさらに向上させ地域の特産品に付加価値を付ける自社商品の開発にも力を入れています。令和3年度からは地域内での宅配サービスを開始し、地域における暮らしの支援として徐々に販路を拡大しています。また、山間部の農地を守るため法人としても営農を実施しています。

近年は、県外や市外から就農希望の移住者を積極的に受け入れ、高齢化の進む地区での担い手育成にも取り組んでいます。

農場の水田は、魚津市稗畠、立山連峰に連なる鉢剣岳の麓に広がり、約30㌶のうち23㌶が棚田です。お米は、農薬や化学肥料を使わない、環境保全米（つるぎの麓）、自然栽培米（富の環）として栽培され、毎月120人から150人のお客様に届けているとのことです。

社長の稗苗良太氏は、大学時代に出会った恩師とラオスを研究し、人々の暖かなコミュニティとお互いへの思いやりに満ちたラオスの良さが、ふるさとの原風景と幼少期の思い出と重なり農業でそんな未来をつくりたいとの想いから、ひえばた園を始めました。当初は、なかなか振り向いてもらえませんでしたが、少しずつ良さを理解してくれるお客様が増えてきたとのことです。

2022年2月、ひえばた園から株式会社NOROSHI Farmを立ち上げ、体制を強化しました。中山間地の棚田は手入れが大変なので、畔の草刈りは地主にしてもらうなどの工夫をし、現在、従業員は3～4人で経営しています。また、最近、直売所を開設しお米ばかりでなく、おにぎりや米粉おやきなどの加工品も販売を始めました。

地域には、耕作放棄地や後継者のいない棚田も多く、今後とも同社で引き受けて行き、地域の活性化の起爆剤としての会社を目指したいとの思いを話してくれました。

株式会社 NOROSHI Farm　https://www.noroshifarm

the rice farm NAGANO INA https://ricefarm.jp/jp/

「海外コメ市場へのマーケットイン」を軸とした無農薬米の生産

Case3

株式会社 Wakka Agri

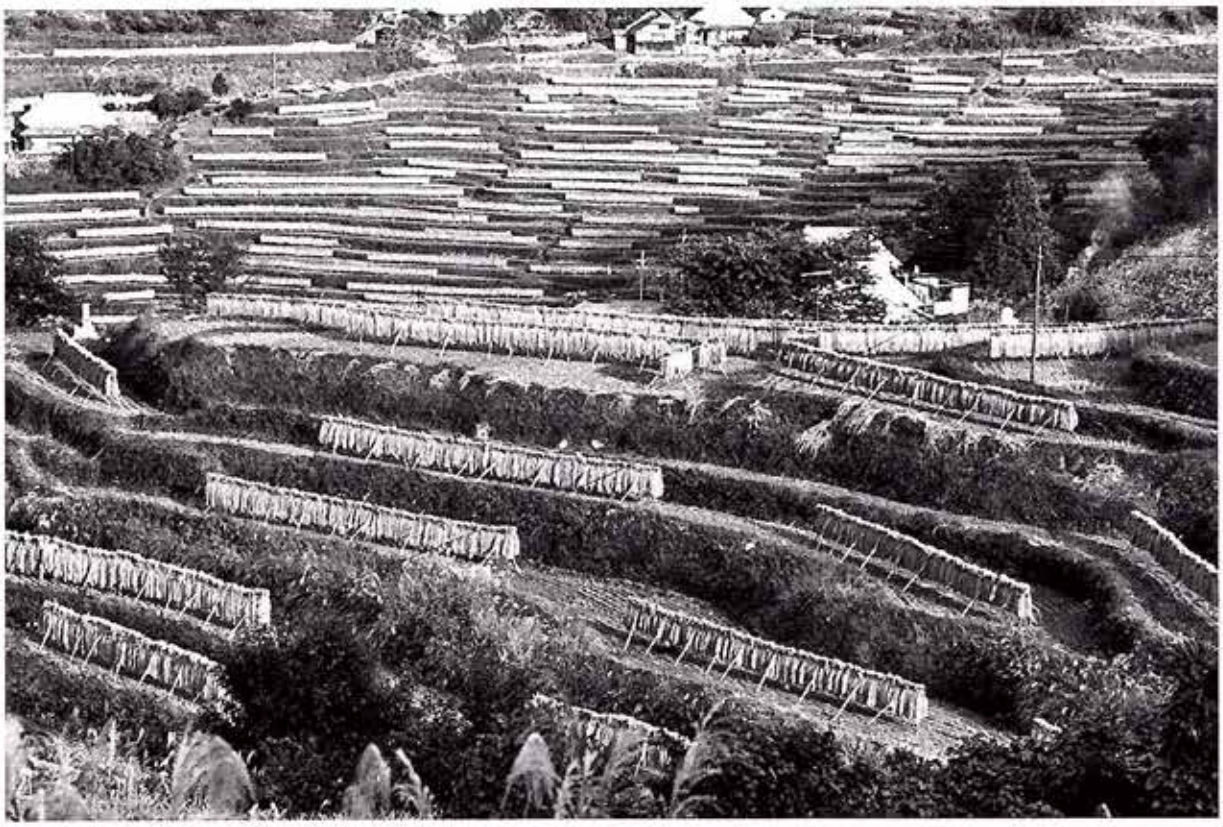
長野県伊那市長谷中尾（中尾の棚田）

長野県伊那市長谷中尾地区は、長野県南部の二つの日本アルプスに挟まれた山間にあります。２０１５年（平成27年）に旧中尾集落協定が高齢化により営農活動が困難となり解散し、耕作放棄地が増えていました。

輸出米事業を展開していた株式会社Wakka Japan代表出口氏が海外市場に特化したお米を作りたいという思いから長谷地域に移住し、２０１７年（平成29年）に日本で初めての輸出米専門の農業生産法人（株式会社Wakka Agri）を設立し、「海外コメ市場へのマーケットイン」を軸とした無農薬米の生産の取り組みを実施しています。

会社は、海外市場に目を向け、香港、シンガポール、台湾、ハワイ、ニューヨークでＰＲ活動を行い、２０２０年（令和２年）に株式会社Wakka Agriと地元住民を巻き込んだ新中尾集落協定が発足し、中尾地区を拠点とした耕作放棄地の再生、高機能玄米「カミアカリ」の作付け、加工品製造、優れた景観を活かした棚田祭の開催、地元住民の正規雇用等を通じて地域課題解決のための活動を積極的に行っており、荒廃農地の再生は10㌶（令和３年度）に増加し、２０２１年度（令和３年度）は15トンのお米の輸出を達成しました。

今後は、豊かな自然、土の匂い、雪解け水の冷たさ、新緑のエネルギーを感じながら農薬や化学肥料を一切使わずに作る稲作体験や「標高１０００ｍの天空の棚田からネオン煌めくニューヨークへ届ける米作り」をキャッチフレーズに海外向けの米作りを広げていき、その中で中尾地区の魅力を発信、中尾地区のみならず長谷地域をリードする役割を担っていきます。



最盛期の上山棚田（1970年代）

フォトエッセイ

美しい棚田との出会い

写真・文　高田 昭雄

岡山県美作市の上山棚田も秋を迎え、細長く小さな田んぼ毎に、はざ掛けが一列に並んでいた。その美しさに魅せられ何枚も何枚もシャターを切った。1975年のことだ。

江戸時代よりコメが経済の中心で、ここに住んでいた人達も谷筋に沿って一枚一枚と気の遠くなる努力を重ねて棚田を拓いてきた。六千枚とも八千枚ともいわれる数の棚田である。

一枚の田んぼの広さは平均で30坪程で、細長く幾重にも並んだ田んぼを埋め尽くすはざ掛けがあった。それから約40年の後には、棚田はほとんど姿を消し荒野と化した。

村の片隅にこんな句がある。

「厳しき祖父の一言『家を継げよ』従ひたれども棚田守れず」　村人の無念さが伝わってくる。

そして今日、都会から来た移住者によって少しづつ復活してきている。

移住者の手で蘇りつつある最近の上山棚田

高田 昭雄 たかた あきお

1939年 岡山県生まれ
1971年 三つの子どもの世界 四人展（銀座ニコンサロン）
1972年 カメラ雑誌「フォトアート」招待作家
2005年 個展「燐粉になった島」（新宿コニカミノルタプラザ）
2005年 写真集『燐粉になった島』
2014年 個展「よみがえれ千枚田」（新宿コニカミノルタプラザ）
2016年 写真集『水島の記録』（吉備人出版）
2021年 写真展「恵みの川・歴史の道―小田川」
故石津良介氏に師事、協同組合日本写真家ユニオン会員

追谷棚田～先人から引き継がれた追谷の風景

島根県奥出雲町竹崎　追谷

1：追谷棚田の全景／2：田植え機に乗ってみる／3：秋の追谷棚田／4：稲刈り体験・ハデの前で

本町は、島根県の東南端に位置し、中国山地の嶺を境に鳥取県と広島県が接しているのどかな山里です。農業は水稲を中心とし、棚田も多くあります。追谷地区も棚田が多くあり、追谷棚田は、船通山の大蛇退治でスサノオノミコトが高天原から追放されて地上に降りてきた地であり、「たたら製鉄」が行われていました。良質な砂鉄がとれたこの地では、江戸時代から明治にかけて、山を切り崩して水の勢いを利用する「鉄穴流（かんなながし）」で砂鉄採取をしていた場所でもあります。この砂鉄採取跡地を棚田にし、「仁多米」の産地でもあります。

2014年に「国の重要文化的景観」、19年日本農業遺産「たたら製鉄に由来する奥出雲町の資源循環型農業」の一部として文化庁、農林水産省より選定・認定されました。

棚田を活用した取り組み

現在、棚田が見おろせる展望デッキがありますが、ここは、以前地元に公園が存在し、集落内で「公園の復活を」と計画するのに併せこの展望デッキを建設しました。周りには桜の苗木を数本植え、「年に一回は花見でもしましょう」というのが始まりでした。数年が経過し、棚田の注目度も上がり、16年に棚田のライトアップ事業「たたらの灯」がスタート。田んぼアート、フォトコンテスト、ライトアップコンサートなど行いました。

現在はコロナ禍もあり近年イベントの開催は行っていませんが、コロナ禍の中「少しでも元気をだして欲しい」と打ち上げ花火を行っています。

農業体験を通して

米子市を拠点とする「楽笑本舗」さんが追谷地区を訪れ、自然豊かな本地区を気に入っていただき、縁あって交流がはじまりました。その中で、古民家の改修、子どもたちに

農業体験を通して、自然との共存とその喜びを感じて欲しいと「仁多米」作りの農業体験を毎年開催しています。5月には田植え、秋にはハデ干しの稲刈りを行っています。

なんといっても お米が美味しい

西の横綱とも評される仁多米の中でも、追谷地区で生産されるお米としてブランド化した「源流仁多米こしひかり」は、噛むほどに広がる甘みと旨み、ふっくらとした食感、冷めても美味しい味わいが特徴。

追谷に流れる水は、斐伊川の源流となる場所で、ミネラルをいっぱい含んだ船通山からの清らかな水を利用しています。

つなぐ棚田遺産に認定

奥出雲町農業振興課担当課から「つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～」に申請したいとの話がありました。最初は前向きな答えはしていませんでしたが、申請をすることとしました。22年3月に認定され驚いたところです。

棚田を通して多くの人たちとの繋がりも増えライトアップ事業に関しお世話になった（株）プリアップ、楽笑本舗など助けていただいたみなさんのお陰で、地元住民にも良い刺激となりました。

今後も景観の維持農地の維持いろいろなことが一体となって今後の発展になることと、町内外を問わずこの棚田を見に訪れていただける場所になるよう頑張りたいと思います。

なお、2023年秋の「たたらの灯」は10月8日から28日の予定で行われます。ぜひお出かけください。

（竹崎本郷集落協定　事務局　藤堂稔）

5：源流仁多米の生産者の皆さん／6：yahoo でネット販売中（協力：株プリアップ）

棚田へのアクセス

【公共交通】　JR木次線・出雲横田駅前よりタクシー利用で10分

【自 動 車】　松江自動車道・三刀屋ICから国道314号の経由で、出雲横田駅を目標に進み県道258号に入る。ICから35km

お問い合わせ

島根県奥出雲町農業振興課
Tel.0854-52-2679

7：古民家を改修して交流拠点に／8：夕陽の追谷棚田／9：ライトアップイベント「たたらの灯」

棚田BAR ～棚田里山酒めぐり～ vol.4

書き手：
大黒屋深沢 sakeてらす
西郷弓央世

棚田のお酒が揃う角打ち酒屋、誕生ストーリー

東京の真ん中にあるアットホームな酒屋で、その場で試飲ができる「角打ち」が人気。新橋の老舗酒店「むらまつ酒商類」の姉妹店として独立する時に込めたテーマの1つが棚田。全国各地の棚田のお米で作られたお酒を取り揃える人気店の誕生秘話をうかがった。

日本酒を今一度原点に帰って勉強してみようと夫婦2人で各地に出向いていた頃、新潟の社氏さんのご紹介で参加した会で棚田をこよなく愛する青年に出会い、棚田の魅力に取りつかれ各地に足を運ぶようになりました。

鳴川の大山千枚田では、海の近くなのに神秘的な棚田があるのかという驚き。空気が凛としていて妖精達が宿っているようでした。長野の稲倉棚田キャンプでは、棚田酒を集めたBARが大人気。美味しい空気とお酒が身体に染み渡りました。

その青年が、毎年年末にビッグサイトで行われるエコプロの棚田コーナーで棚田酒を販売してくれる酒屋を探していたと言うのです。もちろん参加させていただきました。回を重ねるごとに「今年も買いに来たよ」というお客様も。さらに美味しいお酒の試飲に舌鼓を打たれるかたも多くいらっしゃいました。

棚田で出来上がるお米は、太陽の恩恵をお腹いっぱい受けおいしいお米に育ちます。そのお米を使ってできる日本酒は別格です。

今後も酒屋として棚田の日本酒をより多くの皆様にご紹介したいと思っております。

https://saketerasu.raku-uru.jp/

Tanada BAR

生きもの屋の里山考

文・写真　(株)環境指標生物 高木 圭子

六百の名前を持つ花

棚田の秋と言えば、というくらい、黄色く色づいた田んぼと赤いヒガンバナの組み合わせはお馴染みです。一斉に開花する様子が昨今の「映え」文化にも歓迎され、本種の名所としては、お寺や河川敷と並んで各地の棚田も多数名前が挙がります。

ところで、本種には毒があります。毒というと忌み嫌われそうですが、本種は有毒ゆえに人々の生活に深く関わった面があります。例えばお寺や棚田に多いのは、畦に穴を開けたり、お墓（かつては土葬！）を荒らすモグラ除けに、有毒の本種が植えられたためです。また、飢饉のときに食べる救荒植物でもありました。毒なのに？と思うかもしれませんが、もし毒抜きの手間もなく普段から美味しく食べられたら、肝心な飢饉の時にあまり収穫が見込めません。食べにくいことは、救荒植物としては大切な特性なのです。

だるまちゃんシリーズで有名な絵本作家・かこさとしさんが『ヒガンバナのひみつ』という作品のなかで、全国各地のなんと六百を超える呼び名を紹介しています。彼岸に咲く（彼岸花）、一斉に咲く（一時花）、花が赤い（曼珠沙華）、花期に葉がない（歯欠け草）、お墓に咲く（死人花）、毒がある（痺れ花）、食べられる（毛無芋）などなど。名前が多いということは、それだけ昔から、人々の暮らしとの接点が多かったことを示しているわけで、まだまだヒガンバナの世界は奥が深そうです。

稲刈りの時期に咲くヒガンバナ

棚田博士は今日も行く！

中島峰広の全国棚田行脚

空木岳を望む伊那谷の棚田

長野県中川村飯沼

飯沼棚田と雄大な中央アルプスの眺め

中川村は、長野県南部を占める伊那谷のほぼ中央部にある駒ケ根市の南に位置し、村域が天竜川の両岸に跨っている。飯沼は、村の北部、天竜川左岸にあり、伊那谷を挟み百名山の一つ、空木岳を正面にする集落である。河岸段丘上にある集落の棚田は令和4年に棚田百選のニューバージョン「つなぐ棚田遺産」に選定された。

2023年4月上旬、中川村飯沼を訪ねた。「狩人」が唄う歌謡曲の歌詞にもなっている新宿駅8時発の「あずさ」号に乗り、岡谷で下車。それからは駅間の距離が短い飯田線の普通列車に乗り換え、白く雪を頂いた中央アルプスの山並みを眺めながら伊那谷を南下する。主峰の駒ケ岳を後にし、始発駅の岡谷から数えて22番目の駅「飯島」で下車する。最寄り駅はさらに一つ先の「伊那本郷」であるが、周辺は家屋もまばらな無人駅であるため、駅前にタクシー会社や商店もある飯島で下車したが便利だと役場の職員に教えられていたので、助言に従い手前で降りることにした。

当日は、駅に中川村建設環境課の課長宮崎朋実さんが出迎えていて、現地まで案内してもらった。車は駅前から線路沿いを北に向かって走り、八十二銀行の支店がある交差点を右折、踏切を渡り県道200号を東進、飯島駅東交差点をさらに右折して国道153号を南下する。本郷交差点を左折してからは村道と思われる道を進み、段急崖の坂を下り、天竜川に架かる飯沼橋を渡れば飯沼集落である。左岸の段急崖を登った上に目指す棚田はある。

空木岳の雄大な景観を眺める棚田

棚田は、河岸段丘上の山際にあり、農水省の個票によれば面積2・5㌶、枚数34枚、法面構造は下が石積で上が土坡となっている。傾斜は5分の1でかなりの急斜面に拓かれている。棚田一枚の大きさは4～8㍍、棚田としては一枚が比較的大きく、かつて畝町直しが行われたことを推測させる。

土坡の高さは2～5㍍ほど。すべてではないが、山側の土坡の基部

中島 峰広（なかしま みねひろ）（棚田博士）

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO法人棚田ネットワーク名誉代表。全国棚田（千枚田）連絡協議会理事、棚田サミット開催地選定委員会委員長。1933年宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地歴科卒。2004年まで早稲田大学教育学部教授。著書に『日本の棚田―保全への取組み』『百選の棚田を歩く』『続・百選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』（以上、古今書院）。現在、百選外の棚田についての執筆準備のため全国行脚中。

には「シケ抜き」とよばれる用排水をかねた水路が設けられており、水溜りができていた。用水は背後の山から出る湧水や沢水を利用してきたが、昭和50年代に村がこれらの水源を上水として利用したため、その代替として天竜川からポンプアップした用水を利用しており、その電気代などの維持費は役場が負担しているそうだ。

この棚田の特徴は、背景の雄大な景観にある。眼下には右岸側の2～3段の河岸段丘がひろがり、段丘崖の黒々とした森、その上の段丘面を占める集落や耕地、田切（段丘を侵食して流れる支流の河谷）の谷に架かる長いコンクリート橋など。そして目をあげれば白く雪を頂く中央アルプスの山並み、北に駒ヶ岳、そして正面に空木岳を眺めることができる。

飯沼活性化委員会の結成と解散

現地でお会いした棚田の守り人は「飯沼活性化委員会」の最後の会長を務めた地元住民の宮下明芳さんと、現在棚田の耕作を引き受けている農業法人の会社員白鳥隆之さんの二人。宮下さんは80歳、奥さんと二人で暮らす。中学卒業後、16歳で伊那市の工務店に就職、4年後の20歳の時に退職、帰郷して独立した。同時に耕耘機とバインダーを使用し、5～6枚からなる30アールの水田を耕作する兼業農家になった。水田は1983（昭和58）年の水害後、圃場整備が行われ1枚になったが、集落内の農家に委託して脱農した。

飯沼の棚田は、平成10年代に入ると脱農する農家が増え、放棄が目立ち始めた。これを憂いた一部の集落の住民20名ほどが2004（平成16）年に「飯沼活性化委員会」を結成、棚田の耕作を引き受けるようになったという。棚田では酒米「美山錦」が栽培され、村内の酒屋である米沢酒造に買い取ってもらうことにした。会社ではこの米を使用して清酒を造り「おたまじゃくし」の商品名で販売を始めたところ、なかなかの評判で1・8リットル瓶で数千本を出荷しているそうだ。

しかし、令和に入ると放棄を憂いた農家でさえ、高齢化により離農する農家が目立つようになって、メンバーが半減、30年以上も前に離農した宮下さんが会長を引き受けざるをえない事態となり、2021（令和3）年ついに解散するに至ったのである。

ぱぱな農園の参入

2022年からは、すでに支援に入っていた伊那市に事務所を置く合資会社「ぱぱな農園」が「飯沼活性化委員会」に代わり飯沼の棚田25枚について作業を行うことになり、同じ酒米を作り、米沢酒造へ販売することになった。農園は、作業に従事する社員が8名、所有する主

1：田んぼの傍に馬頭観音の石碑／2：眼下に天竜川、対岸には集落／3：基部が石積み、上部が土坡／4：シケ抜き

要な機械類はトラクター5台（20、30、40、50、80馬力）、乗用4条植え田植機、乗用2条刈コンバイン2台、畦塗機、スピードスプレーヤーなどで、水田5㌶（4地区）、果樹類のりんご0・7㌶、ぶどう0・5㌶、普通畑でとうもろこし2・5㌶、ながいも0・6㌶などを栽培しているそうだ。

当日、現地では「ばばな農園」の社員白鳥隆之さん36歳が畦塗機を牽引するトラクターに乗り、一人で黙々と作業を行っていた。伊那市の出身で、高校卒業後に上京して音響関係の仕事に携わっていたが、31歳の時に帰郷、地元の農園に就職した。私が出した礼状のはがきに生真面目に返事を書いてくれた好青年だ。畦塗りの作業はほぼ終わりに近く、機械によるものか、角ばった整然とした畦が光ってみえた。このあと耕起が行われ、水が入り田植えを待つことになる。

その田植えと稲刈りの日は日ごろ静まりかえっている山里がハレになる日で、社員のほか、「ばばな農園」のグループ会社である従業員600人の「伊那食品工業株式会社」から40名、中川村とJAからそれぞれ5～6名、地元からも10名ほどが参加し、賑やかに行われるそうだ。

これまで30年近く棚田地域を訪ねてきた筆者も、今年の誕生日で卒寿の90歳になるが、さすがに細い畦道を歩くのに不安を感ずるようになった。この間お会いしてきた棚田の守り人の多くが同じ世代の人たちかそれに近い人たちだったので、今棚田地域では飯沼で見たような高齢化による離農という事態が進行しているものと考えられる。棚田地域は正に正念場を迎えたといわなければならない。

左から宮下さん、白鳥さん

6・7：米澤酒造／8：黙々と畦を塗る

棚田へのアクセス

【公共交通】JR飯田線「飯島」駅前からタクシー利用で約10分。最寄り駅は隣の「伊那本郷」であるがタクシー利用には不向き

【自動車】中央自動車道・駒ヶ岳スマートICより国道153号に入り「本郷」交差点を東に進み天竜川を渡る。ICから11km「本郷」交差点から2.5km

読者のひろば

甦れ、広内・上原地区棚田

福岡県八女市
NPO法人がんばりよるよ星野村
山口聖一

私は農家でも棚田の研究者でもない。棚田との出会いは八女市星野村にUターンをした時だ。その直後2012年九州北部豪雨で甚大な被害を受けた。セカンドライフのフィールドになるはずのふる里がズタズタになった。災害ボランティアをスタートした。

広内の棚田は取水用の谷が崩壊したが石積みは壊れていない。水が引けなければ田植えは出来ない。田んぼは1年放棄すると再開には2～3年かかるという。それにしても石積みの強靭さには驚いた。先人へ思いをはせる。残さねばという衝動に駆られる。しかし425枚の田んぼはあまりにも広大すぎる。

1人の若者がボランティアに来ていた。「自分は百名規模でボランティアを集めることができる」という。棚田の復旧に取り組むことにした。2013年から計画を立て、翌年のゴールデンウイークに本当に全国から70名の大学生が来た。3日間、草刈りから始め、鍬とスコップで耕してヒマワリを植えた。被害から3年目にパイプで水を引いて3枚だけ田植えをした。村中の人と一緒に収穫を喜び、八女市長も一緒に棚田で「おにぎり乾杯」をした。

翌年灌漑工事が終了して本格的な復興だと喜んだが、取水口がない！また田植えが出来ない。ボランティアのメンバーも落胆した。その年も暫定の田植えしかできなかった。土木学会が動いてくれた。八女市も動いた。取水口の工事を再開して翌年完成した。

しかし5年の歳月は、保存会のメンバーから棚田の再開の情熱を奪ってしまっていた。地元による再開を期待して、ボランティアや星野小学校生徒で稲作を続けた。ついに2021年には殆ど収穫が出来ず、翌年からの稲作は止めた。年に2～3回の草刈りをして、階段状に美しく精巧に積まれた石積みを見せるだけだ。棚田サミット開催のきっかけにもなったこの棚田は、棚田の面積よりも石積みの面積の方が広い。

今後は地域資源、観光資源として、保全、利用について行政、村民、識者といった様々な主体で議論されることを期待している。

読者の Best Shot!

想定外の棚田との出会い

福岡県福岡市　山本 哲也

旅先で、名前を知らない棚田と出会うことがあります。想定外の棚田との出会いは、わたしにとって大きな喜びです。

先日は石川県を訪れ、時間を見つけて加賀市にある加賀東谷伝統的建造物群保存地区に行ってきました。保存地区だけあって、集落の様子も良かったですが、集落の背後に棚田を見つけて、思わず駆け上りました。周囲は山、森林に囲まれた集落で、残る世帯もほんの僅かです。わずかに残る棚田が見られたのは、この集落にひとが生活している証を見た感じがして、それが嬉しくて、応援したい気持ちになりました。

読者の声募集！

「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください！ご要望、感想やご質問でもOK！（声800字まで、レポート400字まで。写真も添えて）
〒一六〇－〇〇二三 東京都新宿区西新宿七－一八－一六 トーシンハイム新宿七〇四号「棚田に吹く風 読者のひろば」宛
メールでも受付けています ⇩ hensyuu@tanada.or.jp

やまがたの棚田シンポジウムを開催しました

山形県農林水産部農村計画課　阿部 志美

令和5年7月19日（水）山形市の山形ビッグウイングを会場に、棚田地域をはじめとした中山間地域の農地保全・農村振興に取り組む優良事例の共有や、関係者のネットワークづくりを目的とした「令和5年度やまがたの棚田シンポジウム～つなぐ　つながる　つなげる～」を開催しました。

基調講演の講師として棚田ネットワークの中島名誉代表をお招きし、「棚田保全活動の企業化」をテーマに、棚田オーナー制の事例や地域おこし団体による地域の活性化の事例をご紹介いただいたほか、「地域を守り、つなぐ」をテーマに行ったパネルディスカッションにも助言者として参加いただきました。ディスカッションでは、県内の専業農家、県外から移住し就農した方、青年会を立ち上げ草刈隊などの活動をされている方、多面組織の事務を担う女性役員など、農村地域で担い手として活躍する6名をパネラーとして迎え、地域の現状や課題、今後の可能性について、それぞれからお話を伺いました。会場からは「地域の高齢化が進む中、どう話し合いの場をつくればいいか」「次の世代にいかに引き継げばいいか」などの質問もあり、非常に活発なディスカッションとなりました。

参加者は230名にのぼり、盛会のうちに終了。シンポジウムの最後には「山形は集落の機能はしっかりしているし、まだまだ大丈夫」と中島先生からコメントをいただき、棚田地域の方はとても元気づけられたのではないかと思います。

会場内ではアシストスーツや草刈り機のデモ展示、県内の大学に通う学生が運営する農業サークルの活動展示、山形県の取組みに関する展示を行いました。参加者は、積極的に質問し、試着や試運転を行うなど熱心に見ている方が多く、関心の高さがうかがえました。

また、シンポジウム前には、中島先生を囲み棚田地域の方と、県内4地域の棚田米を食べながらの懇談会も開催。翌日には県内3カ所の棚田を訪問し、地域の方と直接お話をするなど交流を深めていただきました。中島先生、この度は本当にありがとうございました。この場をお借りし感謝申し上げます。

基調講演

アシストスーツの試着

編集部イチオシ! BOOK & MOVIE

BOOK

江戸の好奇心 花ひらく「科学」

池内了 著
1,210円(税込)
集英社新書
2023年7月

江戸時代は政治的に安定して200年以上平和を保つことが出来た。「江戸の文化」の担い手は、武士階級、豪商、医師、僧侶、そして町民が加わり、役に立つことは一切考えず、ただ好奇心おもむくままに探求し、収集し、趣味として楽しむことに熱中した。その中で生まれた科学を著者は近代科学とは別の「もう一つの科学」としてとらえている。

構成は以下の5章。

第一章　和算（日本の数学の歴史／和算のその後　他）
第二章　博物誌（本草学から博物誌へ／博物大名　他）
第三章　園芸（花卉・花木園芸の歴史／江戸の農業・野菜作り　他）
第四章　育種（鼠、金魚、鳥、虫、蚕）
第五章　技術（鉄砲・花火／望遠鏡・眼鏡／時計／からくり）

自由奔放に「科学」に遊んだ江戸の人々を羨ましくさえ思える一冊。

第48回

棚田俳壇

令和5年

主人 しろうと 五七五

早稲穫りの平場眼下や千枚田
大空や三段掛けの稲の束
名月や鎌研ぐ砥石丸み帯ぶ
身に沁むや探る屋根裏自在鉤
松戸市 井上久志

田の神も酷暑にあきれ嵐呼ぶ
焼けただれ人も地球も鬱となり
ひぐらしに茗荷をさぐる秋近し
新米も「半殺し」なりきりたんぼ
隊列も心なごめり大豌(おおたま)
土谷棚田夕日を浴びて米の里
お結びがあれば幸せ歳降りて
「満場一致」事は簡単北中露
調布市 高木宏明

学校田童の如く青々と
綱かかり今年も豊かに学校田
山の田に皆で集うはいつの日か
新潟市 田入絵人

草伸びて武者の如くに鎌を振る
ベランダで花火観て宴たけなわに
夕暮れに行き交う人波盆提灯
休み明け気持ち切り替え入道雲
豊島区 小川順子

やれ蟬し カヤネズミの巣豊作か
マンムシの時の移ろい知らしめて
浅間山見上げる赤白蕎麦の花
両止みてあぁ屋久島の星月夜
夏合宿レンゲショウマと再会す(写真句)
浜松市 一露

4年ぶり花火にドローン蝶描き
夏空に田んぼ干上がる雨よ来い
今日もまた蝉しぐれ続く猛暑かな
草刈りや猛暑ものせずあおあおと
取手市 杉山行男

うな垂れし鉢に夕立生を見る
もう御免攻め来る台風群れなして
秋雨に夏の酷暑も早や忘れ
畦みちに夏の落し子蝉の殻
所沢市 上久保都夫

誌上添削

御嶽や 村の全戸に 柿簾

■ヒント
「全戸」を言い換えて見ましょう
【次回募集は11月末日】※解答は下記

解答例：御嶽や 村のスミにも 柿すだれ

棚田ネットスタッフのつ・ぶ・や・き〈輪番制〉

今回のつぶやき人
事務局 畦野 花世

スマホではなくPCの話。突然、webページの閲覧ができなくなった。最初は「接続が不安定です云々」と表示され、そのうち全然つながらなくなった。棚田ネットや棚田navi、twitterやニュースのサイト、PCから接続するLineは×、さらにメールの送受信ができない。ところが、ぜ～んぶダメかと思いきや、繋がるページが少しあるのだ。facebook、youtube、amazonの買い物サイトなどは繋がる。googleの検索サイトもトップページは見られる(その先に行けない)。webメールはniftyとgmailが○、yahooやsakuraは×。「なんじゃ、こりゃ？」である。いずれにしても切実に困る。

ネットワーク診断なるものを試してみる。機器を再起動しろというので、モデムとルーターの区別もロクにできない年寄りが、恐る恐るコンセントを抜いたり挿したり。そもそも我が家の回線はどうなってるんだっけ？　NTTの光回線からdocomo光に代えたんだっけ？いや、@nifty光だったか？　プロバイダーに訊けばいいのか、それともdocomoか、PCの問題なら購入したビックカメラだろうか？　最近は問い合わせ用の電話窓口を公表していないところも多い。"初めの一歩"がわからない……。

二日間、悪戦苦闘した挙げ句、引き出しの奥にあった5年前の契約書から電話番号をたどり、nifty窓口の親切なお姉さんと40分近くやりとりして、問題は解決した。原因は、1カ月前にniftyのパスワードを変更したことによる接続エラー。時間差でこんなところに影響が出て来るとは。わかるわけないよなぁ……。

千葉県鴨川市
川代棚田でお米づくり

順調に体験イベント

今年は、新型コロナの感染法上の扱いがインフルエンザと同じ5類に移行したこともあり、私たちがお世話になっている鴨川市川代柿ノ木代棚田も、オーナーが増え、賑わいを見せています。「つなぐ棚田遺産」に認定されたことが地域の人々の自信につながっていると感じます。8月27日の草刈りもオーナーさんも多く参加され、次の週の稲刈りの準備ができました。

今年は例年になく猛暑と水不足が続きましたが、ポンプによる用水の確保をするなど、地元の皆さんの努力により生育は順調で、棚田ネットワークの稲刈り体験も20名近くが参加が予定、9月3日に、無事できることと思います。

ウクライナとロシアの戦争による小麦など食料品の値上がりで、食料の大切さを実感でき、棚田を含む農業の大切さを感じる人が増えるように願わずにいられません。川代での農作業体験や棚田米を食べていただき、多くの皆さまに棚田の魅力を感じていただけるよう今後とも続けていきます。

（杉山行男・小川順子）

岐阜県恵那市
棚田ビオトープ プロジェクト

9月23日に稲刈りを予定

昨年のビオトープ田んぼ

原稿を書いている現在は、七十二候の「天地始粛（てんちはじめてさむし）」で、ようやく暑さが鎮まってきました。特に今年の岐阜の夏は暑く、外での作業では、空調服（服に扇風機がついているもの）がないと熱中症で倒れてしまったのではと思います。小さい頃、35度といった気温は天気予報でも聞いたことがなく、これも地球温暖化の影響なのか心配です。さて、8月5日に予定していた「こども棚田ビオトープ観察会」ですが、受け入れ先の都合により、中止となりました。今後、来年はどうするかなど、企画を考えていきたいと思います。

「天地始粛」の次の七十二候は「禾乃登（こくものすなわちみのる）」で稲が実る季節。9月23日（秋分の日）に稲刈りをする予定です。

別件になりますが、棚田ネットワークより岐阜県下呂市金山町の福来の棚田の写真が欲しいということで、「夏休みの宿題」として現地に行きました。「ぎふの棚田21選」にも選定されている棚田で、空積みの猪垣・鹿垣（獣害対策の石垣）が見事でした。

（相田 明）

静岡県松崎町
石部棚田で昔ながらの米づくり

夏の草刈り・草取り

7月8日に、1回目の草刈り・草取り作業を参加者6名の少数精鋭で行いました。雨が降りそうで降らない絶好の草刈り日和。今年の畦は水を含むと少しゆるい感じがして、畦切り時のたたき作業、畦塗り時の空気を抜く作業の甘さを感じたり、囊口の作りが甘く、既に崩壊しているものもありと、まだまだ課題が多く棚田作業の奥の深さを実感しました。

8月19日には2回目の草刈り・草取り作業。お天気は、ちょうど太陽が隠れるくらいの曇天で風も心地よく吹き、暑くはあるけれど日中の作業も可能なくらいでした。4名＋ワンちゃんと少数精鋭チームで稲と一緒に元気よく育った草の除草に勤しみ、時間の許す限り田んぼの中の草取りをしました。稲の成長は、今年は棚田オーナーの田んぼの稲と見比べても遜色なく、順調に成育しているようです。次回はいよいよ10月7日、8日に稲刈り体験を行います！

（高桑 智雄）

使いづらい、だけど美しい！始めてみよう〝旧暦生活〟

今年もできました！

令和六年 旧暦 棚田ごよみ

月の満ち欠けでひと月を知り、太陽の動きで季節の移り変わりを感じていた「旧暦」での暮らし。
旧暦棚田ごよみは、四季折々の美しい棚田の風景とともに、暦で「季節感」を味わうことのできる旧暦カレンダーです。

壁掛けタイプ

A4(縦210×横297mm)　※開くとタテA3サイズ

旧暦がわかる『ミニブック』付いてます！

注文サイト QRコード

¥1,300(税込)

5部セットがお得！贈答用にどうぞ！

5部セット ¥6,000(税込)

※送料は別途かかります。

ご購入は TEL. 03-5386-4001 もしくは棚田ネットワークHPから
● お電話受付時間　13:00 ～ 16:00　※土日祝をのぞく

※このカレンダーは、旧暦の元日(令和6年2月10日)から始まります。
新暦表示は令和6年2月10日(土)から令和7年1月28日(火)までです。

棚田の応援団 わたしたちと〝棚田の応援団〟やりませんか！

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい！」という会員によって自主的に運営されているNPOです。
消えゆく美しい"棚田"をどのように保全していくことができるのでしょう？ 一緒に考えませんか？ ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう！

会員になろう！

私たちは、会報誌「棚田に吹く風(年4回)やホームページで豊富な棚田情報を発信しています。会員になりこれらの活動に参加してみませんか？

年会費

○個人会員

維持会員	1口1万円(1口以上)
一般会員	4,000円
応援会員	3,000円
学生会員	2,000円

法人会員を募集しています！

私たちは、棚田を守るため、農山村の人々と都市住民双方の協力のもとに様々なプログラムを企画・運営しています。これらの社会貢献活動に賛同し、ご支援いただける企業・団体・事業主様を募集しています。詳細はお問い合わせ下さい。

年会費

○法人会員(賛助会員)
1口 3 万円(1口以上)

編集部から

今号は、14年ぶりの棚田米特集。当会としても棚田保全の重要な柱として、棚田米のブランド化の促進をするために「棚田米シール」などの活動をしてきましたが、なかなか盛り上げるのが難しい10年でした。食の欧米化により米の消費量が昭和30年代に比べ半減している上に、糖質制限や炭水化物抜きダイエットという謎のブームの影響で、ご飯は太るから食べないという声を多く聞くようになりました。いや、米ばかり食べていた昔の日本人は太っていたでしょうか？みなさん、せめて、厚生労働省がすすめる1日の炭水化物摂取量50～65%くらいは、炭水化物、なかでもお米をとにかく食べましょう！

ホームページのここを見て！

棚田ネットのWebサイトも見てみてください！

https://www.tanada.or.jp

棚田に吹く風

2023年 秋号 Vol.129

発行 認定NPO法人 棚田ネットワーク

〒160-0023
東京都新宿区西新宿7-18-16トーシンハイム新宿704号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail：info@tanada.or.jp　URL：www.tanada.or.jp
郵便振替口座：00100-7-151565

【今回の表紙】宮城県丸森町・大張沢尻の棚田